



年頭のご挨拶



高山村長
後藤 幸三

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。村民の皆様におかれましては、令和五年の新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

去年は村長選を始め、日頃よりひとかたならぬご厚情をいただき、心から感謝申し上げますとともに、本年も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

昨年を振り返り、まず思い浮かぶのは依然として猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の対応に振り回された1年となっていましたことです。群馬県全体を見ますと、ワクチン接種の

効果もあつてか、重症化する人は減ってきているなかで、新たな変異株が発生するなど多くの方の感染が確認されています。社会経済活動再開に向けたガイドラインへ取組が示されていますが、感染拡大の影響により、思うように進められていない状況にあると感じています。この感染症の1日も早い収束を願っています。

また、2月には、国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。世界中に暗い影を落とす、長期化の様相を呈している中で、新型コロナウイルス感染症と相まって、あらゆる物の価格が高騰しており、住民生活にも大きな打撃を与えること

となつてしまいました。政府は、物価高騰対策として数々の支援策を打ち出していますが、こちらについても、1日も早く終息し、安心した生活ができることを願っております。

さて、暗い話題の多い一方で、高山村では九月に「たかやま未来センター」さとのわをオープンいたしました。紆余曲折があり、村民皆様にも大変ご心配をおかけしましたが、オープン

後は順調に推移しているものと一応の安堵をしているところでございます。また、これを契機に隣接している農産物直売所の販売数が伸び、生産者の方々の所得向上につながれば、と期待をしているところでもございます。しかしながら、この施設の成否は今後の運営状況にかかっているものと考えておりますので、なお一層気を引き締め、地域の活性化に寄与し、皆さんに喜んでいただけるような施設となるよう努力してまいる所存でございます。

地球温暖化防止対策としてのカーボンニュートラル対策、住民の移動手段を確保するための交通対策、耐震性能の著しく劣化した役場庁舎の整備等々、早急に取り組まなければならぬ課題は山積しております。「なぜ成る、なぜねば成らぬ何事も」を肝に銘じ、行政を推進してまいりますので、村民皆様のお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が村民皆様にとつて幸せに満ち、充実した年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



新年のあいさつ



高山村議会議長
林 昌枝

あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

村民の皆様におかれましては御家族お揃いで健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年コロナ禍の1年であり、会議や行事は縮小または中止となり、各総会等はリモートや書面決議でありました。しかし、政府の方針は経済効果を優先に、訪日客の水際対策の緩和や全国旅行支援を実施してきました。またロシアによるウクライナへの侵攻等により原油をはじめ食料品等の値上がりで生活が脅か

されているのが現状です。

次に完成した「さとのわ」についてですが、令和2年9月10日に地鎮祭が執り行われ工事は順調に進むと誰もが思っていたが、設計不備が発覚したため建設許可が下りず着工することができませんでした。コロナ禍だったり紆余曲折がありまして「さとのわ」の建設につきましては、村民の皆様からは賛否両論がありましたことは議会としても承知しておりました。しかし、「乗り掛かった船」を引き返すことはできませんでした。

執行部からは「さとのわ」を活用するなかで「村の基幹産業での特産物や、たからのやまからの産物を加工し商品開発をして全国販売に乗り出し、経済効果を上げ村民が潤うことを目的とする。」と考え方を話されたことにより議員各位は賛同して参りました。

議員各位の御理解と関係者の御協力をいただきまして、令和4年9月17日に竣工式が挙行さ

れ、グランドオープンを迎えました。移りゆく時代の中、たかやま未来センター「さとのわ」を中心に高山村の未来を描くため村民皆様の御協力をいただき、末永く繁栄しますことをお祈りいたします。

今年は統一地方選挙の年で、県議会議員選挙が4月9日、高山村議会議員選挙が4月23日の投票日であります。多くの皆様方が立候補されまして「100年先の将来にわたり住み続けたい」と思える村づくり」に御尽力いただければと思います。

最後になりますが、村の発展と村民皆様方の御健勝と御多幸を心より御祈念申し上げます。年頭の御挨拶といたします。





年頭にあたって



高山村教育委員会 教育長
山口 廣

新年あけましておめでとうございます。

村民皆様には、ご家族お揃いで令和5年の新春を健やかなうちに迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症による影響もいまだ続いており、学校教育、社会教育、芸術文化・スポーツ分野において、延期や中止、規模の縮小もありましたが、ご理解とご協力をいただき、それぞれの団体が、工夫しながら

活動していただいたことに、感謝申し上げます。

高山小学校は、群馬県教育委員会より、令和2年度から3年間の指定を受け「ICTを活用した群馬ならではの新しい学び」の実現に向け1人1台タブレット端末を活用しながら、研究に取り組んできました。本年度が指定の最終年度となり、その成果を、2回の公開授業を通して、県内の各学校に発信することができました。

また、本年度から保育所と児童館の管理運営が教育委員会に委任されました。このことにより、保育所とこども園、児童館と小学校の連携が一層充実することができ、子ども達の成長を連続して見守ることができるようになりました。

昨年9月に学校給食センターの改修工事が終了しました。以前より指摘されていた衛生面の課題が解決でき、より安全・安心な給食の提供ができるようになりました。この改修により、米飯も自前で調理できるようになり、美味しい給食が提供でき

るようになったと考えています。

社会教育・スポーツ分野では、社会教育施設の貸し出しの制限や村民運動会をはじめとする各種発表会や大会が本年度も中止になるなど、村民の皆様が楽しみにしていた行事が昨年度に続き、開催できなかったことは大変残念だったと思います。本年もコロナの感染状況を見ながら、村民皆様の生涯学習のお手伝いができるよう努めますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに本年が村民皆様にとって幸せに満ち、充実した年となりますようご祈念申し上げます、年頭のあいさつといたします。

